



第1回

自治基本条例（仮称） 策定専門部会 まとめ

令和2年7月21日（火）18：00～20：00
役場4回委員会室

参加者

新田 睦、森部 富士樹、山前 幸介、源津 憲昭、瀬野 乗昭、佐渡 志郎
佐々木 良栄、村上 真美、京屋 愛子、佐竹 正範 計10名

役員選出

部会長 源津 憲昭、副部会長 瀬野 乗昭

専門部会の役割と進め方

- ◆「町民の視点」「未来志向」「創造的」な話し合い ⇒ 条例案
- ◆当初のスケジュール案を保留し、4回のワークショップで課題の理解とチームワークづくりを目指す
- ◆その後、改めて着地までの詳細日程を提案し、本格的に条例策定作業に入る

テーマ：今のまちづくりの問題点は？

この切り口から課題を整理し、町民参加のまちづくりに必要な自治基本条例の中身を明らかにしていく

ワークショップでの議論のまとめ

「情報の共有」⇒「町民の参加」⇒「目指すまちづくり」という大きな論点のつながりで集約できそうだ。



次回のSTEP2 要因分析へ

反省事項

後日、部会員からテーマの「絞り込み」「深掘り」や、「自治基本条例」への理解や必要性についてフィードバックあり。

⇒次回、テーマの見える化、具体的な論点の提示で改善へ

テーマ：今のまちづくりの問題点は？ ※様々な角度からの意見が出たので集約して見える化しました

町民参加

- 町民がまちづくりをする実感
- 会議で町民の発言の場がない
- 町民の巻き込み方が不十分
- 多くの町民の理想反映できるか
- 参加する町民が偏る
- 遠慮なく意見を出し合う
- 役場に言っても「変わらない」
- 様々な立場の人の課題共有
- 議員と話す機会がない
- まちづくりに無関心
- 町内会組織体系の有効性
- 町内会加入率が低い
- 市街地と郊外で参加負担の相違
- 今まで町民が参加していない
- 町民提案へのフィードバックない
- 民生委員の担い手がない
- 町民提案事業の有効性
- 今の暮らしで満足

情報共有

- 役場の文書わかりにくい
- 情報のアナログ発信の必要性
- 情報受け手の手段が多様化
- HP発信方法の工夫
- 役場と町民の距離遠い
- もっとSNSを有効活用
- 役場職員の町民活動への積極参加

理想・将来像

- 町民が住み続けたいと思える
- 農業景観の保全
- 共助の地域づくり
- まず町民の幸福度を上げる
- まちづくりを網羅でなく尖らせる
- ありきたりでなく特色ある条例

両グループ共通

源津委員グループ

瀬野委員グループ

課題

- 財政的視点の欠如
- 産業のコロナの影響
- 障がい者支援の遅れ
- 子どもの遊ぶ場が少ない
- 人口問題、働く場がない